

## 青森県における研究会報告

村上秀一

### はじめに

今年の夏は天候が不順でオホーツク高気圧の張り出しによりヤマセ（偏東風）が続き、凶作、不作の巡り合わせとなりました。その為青森県内の夏祭りは出足が遅れてのスタートとなりました。

日本三大祭りの青森ねぶたや、弘前ねぶた、八戸三社大祭、十和田湖水祭り、五所川原虫送り等々、半年間の冬ごもりを強いられる青森地方において、県民、特に若者達の熱気は一気に爆発します。そして下北の霊場恐山大祭のイタコの語りで、各々の胸に郷愁の念をおさめ、ひと夏の幕が間もなく降りようとしています。

8月16日のお盆の中日を過ぎると、朝、夕はめっきりと肌寒さを感じるようになります。

### I 青森県人工透析研究会

各透析施設間相互の交流を通じ、地域医療の向上を計る事を目的として開催されるようになりました当研究会も回を重ね、第14回を数えるに至りました。

第14回青森県透析研究会は、去る4月14日十和田市、十和田文化センターにおいて、透析医療に携っている県内11施設から一般演題30題が寄せられ、医療スタッフ約300人が参加の中、活発な討議が繰りひろげられました。

今回は主に、骨、関節痛に関する演題が多く、異所性石灰化に対するパルス療法、整形外科的治療、HPM膜の使用、チオ硫酸ナトリウム治療等が効果を得ているとのことでした。

又、腎性貧血の治療法として定着したエリスロポエチンについては、透析患者のエリスロポエチン濃度と、他の所見との関連、エリスロポエチン投与に伴う赤血球の変化等、効果的に使用するための基礎的研究が発表されました。

看護部門では、高令透析者の精神面での援助や、家族の重要性をとりあげた演題、栄養士部門においては、糖尿病性腎症患者の食事管理、高令透析患者の食事摂取向上のための工夫に関する演題の発表がありました。

透析医療の進歩と適応の拡大により、透析患者は10万人に達する勢いですが、その一方で高令透析患者の占める割合、糖尿病性腎症患者の占める割合、骨、関節痛を訴える患者の割合は年々増加傾向にあります。

患者のQuality of lifeの向上が求められる現在、我々透析医療スタッフもさらに研鑽しなければならぬと思われました。

尚、次に一般演題30題を列記致します。

1. 下血を反復したため透析がきわめて困難であった症例  
厚生病院 齊藤 栄子他
2. 急速進行性腎炎の一症例  
村上新町病院 小林奈津子他
3. 透析患者に合併した肝臓瘍の2症例  
村上新町病院 下斗米 恵他
4. 血漿交換が有効であった溶血性尿毒症性症候群の一例  
鷹揚郷腎研究所弘前病院 木村 文一他

5. 救命しえたパラコート中毒症の1例  
村上新町病院 三上 京子他
6. 肝性脳症を合併した透析患者の看護  
鷹揚郷腎研究所青森病院 久保田 法子他
7. 糖尿病性腎症から視力障害を伴う透析患者  
に対する援助内容  
鷹揚郷腎研究所弘前病院 清水目 純一他
8. 透析拒否を示した高令透析患者の看護  
鷹揚郷腎研究所弘前病院 丸谷 敦子他
9. 高令透析者に対する援助  
一 家族背景を主に一  
鷹揚郷腎研究所弘前病院 植松 和家他
10. 腎性貧血に対するエリスロポエチンの使用  
経験  
十和田泌尿器科 池田 智明他
11. 当院における慢性透析患者の貧血に関する  
検討 一第10報一  
慢性透析患者のエリスロポエチン濃度につい  
て  
村上新町病院 小山内 麻子他
12. 長期透析患者のヘモジデローシスについて  
村上新町病院 三上 晶子他
13. 当院透析患者の悪性新生物合併状況  
村上新町病院 中村 洋子他
14. 慢性腎不全における異所性石灰化に対する  
チオ硫酸ナトリウム療法  
弘前中央病院 工藤 まり子他
15. 骨異栄養症に対し活性VD<sub>3</sub>によるパルス療  
法を施行した慢性腎不全の2例  
十和田泌尿器科 後藤 トシ他
16. パルス療法を試みた長期透析患者の1症例  
十和田第1病院 三浦 敦子他
17. 長期透析患者の腰痛及び下肢痛についての  
一考察  
村上新町病院 坂本 真弓他
18. 透析患者における老人食の試み  
佐々木泌尿器科病院 戸賀沢 恭子他
19. 当院で使用している糖尿病性腎不全食の食  
品交換について  
十和田泌尿器科 佐藤 トミ他
20. 糖尿病性腎症の食事管理について  
一糖尿病食から透析食への変更に際して一  
村上新町病院 浜中 美幸他
21. 糖尿病性腎症の食事について  
鷹揚郷腎研究所青森病院 坂崎 睦子他
22. 透析患者の新しいメニューを試みて  
一聞き取り調査の結果と報告一  
鷹揚郷腎研究所弘前病院 福田 桂子他
23. DWの指標としてのHANPの検討  
八戸平和病院 中村 由美子他
24. CAPD症例における自動腹膜灌流装置  
(PAC-Xサイクラー)の使用経験  
弘前大学泌尿器科 川口 俊明他
25. 長期透析患者の小野寺指数について  
厚生病院 遠藤 有紀他
26. 透析患者の血中エンドセリン値について  
厚生病院 高橋 美奈子他
27. 透析液エンドトキシンについて  
鷹揚郷腎研究所青森病院 石沢 勇他
28. HPM膜使用による透析装置内及び排液ラ  
インの汚れに対するAMTECQC-70による洗  
浄効果  
弘前中央病院 赤平 満他
29. 人工透析時に透析液外中に失われるグリコ  
サミノグリカンオリゴ糖について  
浩和病院 今 淳他
30. 長期透析患者と骨関節痛について  
一クリランスSSの使用経験一  
村上新町病院 赤坂 和子他

## II 青森県腎臓バンク、腎移植推進月間

昭和61年より、毎年10月が「腎移植推進月間」として指定され、全国各地にて運動が繰り広げられています。

本県においても腎移植推進及び、ドナー登録運動が継続的に行なわれ、毎年青森県透析医会の主催により腎移植推進公開講演会が開催され、年々その成果をあげていました。

組織及び運動の拡大にともない、昭和63年からは青森県直接の主催となり、知事、環境保健部長が一丸となり、透析医会と共に運動を進めています。今年は第6回目をむかえますが、初めての街頭パレードも計画されております。

## III 日本透析療法学会認定医制度について

先般、第1回日本透析療法学会経過措置認定医認定審査が行われました。青森県からは、只1人の先生が認定されただけで、業績もあり資格も有していると思われる先生方が認定を受けることが出来ませんでした。

青森県透析医会としては、非常に残念に思っております。不認定の理由が明らかにされず、我々の透析医療及び活動が全国に劣るものではないと思っていた県透析医会にとって、会員からの問い合わせに対し答えに苦慮しております。

日本透析医会が発足してから3年、本会の目的に沿って、青森県では透析医療スタッフがチームワークの重要性を認識し、日夜惜しみない努力を続けております。

患者個人、患者をとりまく家族や地域の人々へ向けての透析医療に関する理解への道程は、まだ遠いと思われれます。しかし今後とも前向きに各々が自己研鑽を積み、チーム医療の向上と拡大を計ってゆきたいと考えております。